

生徒E： 知事の幼い頃の夢は何ですか？

知事： 私はなりたいものがたくさん変わりました。最初、子供のころになりたかったのは、パイロット。それから、お医者さんになりたかった。それから、科学者になりたかった。私は結構、武道とかも好きだったので、武道家になりたいと思ったこともあります。だけど、それから、政治家になりたいと思ったり、いろいろ変わりました。高校3年生、大学に入る時ぐらいに、ある程度方向として、将来は政治家になりたいと思っていたので、政治家になるためにも行政のことを幅広く学びたいと思い、まずは行政官になって、何々省とかに入って仕事をして、それから政治家を目指そうと思っていました。

だけど、もう1回、なりたいものが変わった。30代になり、結婚して子供ができて、それから、もう私は政治家になるのはやめようと思っていました。財務省では予算編成などの仕事がすごく多かったんですけど、それはそれでやり甲斐があったから、それに没頭しようと思った。だから、東京で長期のローンを組んで、家も買ったんです。そしたら、こういう話になって、お受けしようということになったのです。

生徒F： 知事さんの好きな食べ物は何ですか。

知事： 私は焼肉が好きです。焼肉も好きですけど、ちょっと年とって、最近は、魚も好きになってきました。高知県の食べ物はたいてい何でも好きです。でも特に、あえてこれが一番うれしいといたら何かというと、土佐赤牛のステーキというのが一番好きかな。私は肉食系。

生徒G： 今の高知の若者をどう思いますか。

知事： 今日の四万十高校の皆さんは、非常に素晴らしいと思いました。

さっき、皆それぞれ、案内してくれたでしょう。コクヨの森を案内してくれた後、その次の人にバトンタッチして、最後の人は、車中でフリーターキングでしたが、絶え間なくずっと案内してくれたでしょう？ ああいうのってものすごく難しいです。なので、あれだけきちんとできる皆さんは素晴らしいなと思いました。

ただ、ひとつ。これは、どの時代の若者ってことでもないんだろうと思いますが、若い人たちには、当たり前のことを言うようですが、



車中から四万十川等を説明する生徒さん

是非とも夢は大きくもってもらいたいと思います。

「どうせ自分はこればあのもん」と、勝手に自分で蓋をしないように。是非、それだけは若い皆さんに申し上げたいと思っています。舞台が高知だろうが東京だろうが、それは関係ない。自分の可能性に勝手に蓋をしないでももらいたいなと思います。

私からしたら皆さんの年なんていうのは、まだ何でもこれから取り返しのきく年なんだろうと思うんですよ。例えば、身近なことを言わせてもらったら、私は高校生から大学にかけて、英語が大嫌いだった。だけど、仕事の関係で外国で4年間暮らしました。やむにやまれず生きていくために一所懸命、英語を勉強した。そして、ある程度、読めるようになったし、しゃべれるようになり、聞けるようになりました。それができるようになったのは、30歳でした。だから、まだ皆さんの年齢だったら、いくらでもやり直しがきく年齢だと思います。是非とも自分の可能性に蓋をしないでがんばってもらいたい。どちらにしろ、自分っていうのはどれくらいのものかって考えないといけない、判断しないといけない時期は、ある程度の年になったら来ますけど、皆さんの時はまだがんばってもらいたいと思います。